

「自己分析シート」を用いた自己評価活動
Using “Self-Assessment Sheet” for Self-Evaluation

白頭宏美・久保田美映（桜美林大学）
HAKUTO Hiromi, KUBOTA Mie (J. F. Oberlin University)

要 旨

本稿では、授業の中で「自己分析シート」を用い、学習者が自己の日本語運用力を評価し、自己の学習を内省する活動を取り入れた実践を報告する。また、「自己分析シート」に学習者が記述したコメントなどから、学習者が「できる」「できない」と判断する根拠となるものは何か、学習者の自己評価は学習を進めていく上で変化があるか、という2点について分析し、授業実践における自己評価活動の可能性を探る。

This article describes a classroom practice in which the learners self-evaluated their Japanese language proficiency by using a “Self-Assessment Sheet” in order to reflect on their Japanese study. From the learners’ comments described on the “Self-Assessment Sheet”, this article analyzes the basis of their self-evaluations and the changes made during the course, and explores the possibility of introducing self-evaluation into classroom practice.

【キーワード】自己分析、自己評価、振り返り、評価の理由、意識化

1. はじめに

近年自律的な学習が注目されているが、自律的に学習を進める上の大きな要素として、自己の学習を評価するということがあげられる。トムソン(2008)は自己評価について、「学習者が内省の機会を得、自分ができること、できないことが意識化できる」などの利点をあげたうえで、学習者には自己評価する機会が数多く与えられることが大切だとしている。また、土屋(2008)は、学習者主体で行う自律学習を主とした授業において、「自己評価シート」(学習者が授業後に書く学習記録)への記入を通して学習者が学習の過程で起こっている変化を意識しているという報告をしている。菅原・高橋(2008)は、自己評価を促す活動として発表やインタビューを組み込んだ学習活動を実施し、学習者の自己評価の変化を報告している。このように、自己評価活動を通して、学習者が自己の学習やその変化を意識化することができることがわかる。ただし、これらの実践は個々の授業や活動後に行う自己評価に焦点をあてたものである。

本実践では、通常の一斉授業の中で、一学期の授業全体を通して学習者が自己の日本語運用力を評価し、自己の学習を内省する機会を設けた。学習を振り返ることにより学習者が自己を客観的に見つめ、学習目標の設定や学習計画に役立てるためである。本実践は2007年度秋学期より継続して行っており、これまでの事例から、自己のニーズの意識化、目標の意識化、自己の日本語運用力の意識化などの有用性がある程度認められた(白頭・久保田 2009)。また、自己分析シートを使うことで、学習を自己評価するだけでなく、その理由を考えることで、より評価がしやすくなるという事例も見られた。そこで、学生の自己評価とその理由についてさらに分析をすすめることで、自己評価を取り入れた実践に

役立つのではないかと思われた。

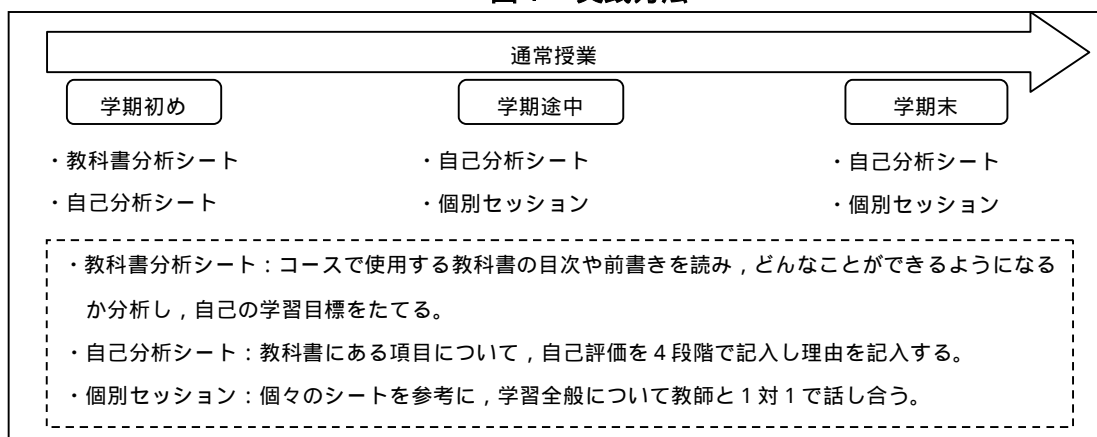
本稿では、自己評価作業を通して自己の日本語運用力を意識化することに焦点をあて、a) 学生が「できる」「できない」と判断する根拠となるものは何か、b) 学習者の自己評価は学習を進めていく上で変化があるか、という2点について分析する。

2. 実践方法

2-1. 授業概要

本実践は、大学の交換留学生対象の初級後半日本語クラスにおいて行ったものである。コースは1学期(週6コマ×15週)であり、学生数は学期により異なるが10名前後、主に欧米系の学生である。通常はテキストを使用した一斉授業を行い、学期初め、学期途中、学期末の合計3回、授業内で「自己分析シート」の記入を行った。実践では、「自己分析シート」への記入とあわせて、個別セッション⁽¹⁾などその他の活動も行った(図1参照)。また、学生による自己評価はコースの最終成績には含めず、あくまでも自分自身の日本語学習を振り返ることを目的としているため、自由に記入するように学生に伝え、使用言語は日本語、英語どちらも可とした。

図1 実践方法



2-2. 「自己分析シート」

「自己分析シート」とは、自己の日本語運用力について自己評価をし、その評価の理由などを記入するもので、本実践において考案したものである。

「自己分析シート」(図2)は学期初めに行う。授業で扱う教科書⁽²⁾の目次をもとに、学習項目をリストし、それぞれの学習項目に関し、学生が現時点における運用力を4段階で自己評価した。学習項目は2008年度の実践では「目上の人に自己紹介する」「面接で自分ができることをいう」などの口頭能力に関したものと、漢字、読解、作文など合わせて23項目である。また、それぞれの評価の理由を選択し、記入した。

学期途中には「自己分析シート」(図3)を用い、授業で既に扱った項目について、現時点での自己評価と、学習を振り返り自己の日本語運用力にどのような変化があったかを評価した。また、学期初めにたてた学習目標を見直し、改めて目標を設定した。学期末に

行う「自己分析シート」も同様であるが、目標設定をする代わりに、目標達成度、学習満足度などを記入し、学習を振り返っての自己評価も記入した。学期途中、学期末のシートでは、それぞれの評価の理由は自由記述とした。

本稿では、自己分析シート の4段階の自己評価とその理由の記述データを分析する。

図2 自己分析シート（学期初め）

I Can you do ①~④ in Japanese? What is your reason why you think you can/cannot?		reason				
4 I can do it fluently 3 I can do it with a little difficulty 2 I will make a lot of mistakes but can manage to do it 1 I will not be able to do it at all		a I have succeeded doing this with a Japanese person outside a Japanese class b I have practiced this inside Japanese class c I think I can do this, because I have studied this d I have studied this, but I think I am not able to do this e I cannot do it, because I have never studied this f others (Write in specific)				
目上の人に自己紹介する ① Introduce yourself to people who are senior to you.	1 2 3 4	a	b	c	d	e
面接で自分ができていることを言う ② Talk about what you can do in an interview.	1 2 3 4	a	b	c	d	e
自分の国の食べ物について話したり、作り方を説明する Explain and describe how to make a simple dish in your country.	1 2 3 4	a	b	c	d	e
アドバイスをする Advise somebody on things he/she should do.	1 2 3 4	a	b	c	d	e
友だちをお誘いする Invite a friend to do						

以下省略

図3 自己分析シート（学期途中）

I 質問: ①~④のことを日本語でできますか。学期開始時と比べてどうですか。また、今、できると思う理由は何ですか。 Can you do ①~④ in Japanese now? Is there any difference compared to the beginning of this semester? What is your reason why you think you can/cannot?							reason	
4 よくできる I can do it fluently 3 少し間違えるがだいたいできる I can do it with a little difficulty 2 たくさん間違えるがなんとかできる I will make a lot of mistakes but can manage to do it 1 ほとんどできない I can hardly do it.								
目上の人に自己紹介する ① Introduce yourself to people who are senior to you.	beginning of this semester now	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	reason	()	
面接で自分ができていることを言う ② Talk about what you can do in an interview.	beginning of this semester now	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	reason	()	
自分の国の食べ物について話したり、作り方を説明する Explain and describe how to make a simple dish in your country.	beginning of this semester now	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	reason	()	
アドバイスをする Advise somebody on things he/she should do.	beginning of this semester now	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	reason	()	
友だちをお誘いする Invite a friend to do	beginning of this semester	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4			

以下省略

2-3. 個別セッション

自己分析シートへの記入後、学生と教師が1対1で話し合う個別セッションを実施した。個別セッションでは、自己分析シート、教科書分析シートなどをもとに個々の自己評価についてより深く理由を問うなどの話し合いを行った。その上で、学習についての問題点や学習方法、今後の学習目標などについてコンサルティングを行った。

個別セッションの様子は学生の了解のもと録音し、本稿では、その録音データの中から学生が自己評価の理由に言及している箇所を取り出し分析する。

3. 自己評価の分析

3-1. 自己分析シートにおける自己評価

3-1-1. 評価の理由

学期初めの自己分析シートでは、2-1で述べた23項目において、現時点でどの程度できるかを「よくできる：4」「少し間違えるがだいたいできる：3」「たくさん間違えるがなんとかできる：2」「ほとんどできない：1」の4段階で自己評価した。そのうえで、評価の理由を記入した。なお、理由は、6つの選択肢から選択することとした（a～f：表1参照）。表2は、自己評価の全体的な傾向を見るため、それぞれの自己評価についての各項目の総数とその割合を求めたものである。対象は、2008年度春学期及び秋学期の学生26名の自己分析シートである。回答の総数には複数回答が含まれている。

表1 評価の理由

reason (理由)
a) I have succeeded doing this with a Japanese person outside a Japanese class (クラス外で成功した)
b) I have practiced this inside Japanese class (クラスで練習した)
c) I think I can do this, because I have studied this (学習したためできる)
d) I have studied this, but I think I am not able to do this (学習したができない)
e) I cannot do it, because I have never studied this (学習していないのでできない)
f) others (Write in specific) (その他)

表2 各項目別自己評価

自己評価	総数	割合 (%)
1	45	9.7
2	180	38.9
3	213	46.0
4	25	5.4

まず、各項目の日本語力をどのように自己評価しているかについては、4段階の自己評価で3と評価した数が最も多く、その割合は全体の46.0%であった。続いて2, 1, 4の順となっている。学期初めであるため、これから学習する項目については1や2の評価が多いことが予想されたが、実際には3が多かった。学生はこれから学習する項目について、自分は既にある程度はできると、やや高めの自己評価をしていることがわかる。これは、来日前に国で学習した経験があるためであろう。また、学習経験があるにもかかわらず4と評価した学生が少ないのは、ある程度はできると考えているが完全ではないと考えている学生が多いためであろう。

また、理由との関連性では、1と評価した項目ではe「学習していないのでできない」とする理由が最も多く、1の理由の71%を占めた。一方、4と評価した項目では理由はa「クラス外で成功した」が最も多く、理由の60%であった。このことから、ある項目が「全くできない」と評価した理由は、勉強したことがないためであり、ある項目が「よくできる・なんとかできる」と評価した理由は、クラス外でできたため、と評価していることがわかる。また、2と評価した項目では、理由はc「学習したためできる」が最も多く、3と評価した項目では、理由はa「クラス外で成功した」が一番多いものの、b「クラスで練

習した」, c「学習したためできる」の割合もほぼ同程度であった。つまり, 学生がある項目を「できる」と評価する理由には, 実際に使ってみてできたという教室内外での成功体験があるといえよう。

3-1-2. 評価の理由 (自由記述)

学期途中と学期末の自己分析シートには, 自己評価の数値について, その評価の理由を記入するコメント欄を設けた。コメント欄は自由記述とし, 学生は各項目についてどうしてそのように思うか理由を記入した。ここでは, その記述データを分類し, 考察する。

まず, コメントは大きく分けて, 言語的要素, 経験的要素の2種類に分類することができた。言語的要素, 経験については, さらに, 「できる」と思う理由」と「できない」と思う理由」に分けられた。表3は, その分類とコメントの総数である。学生によってコメントの量や, 詳細さの度合いは異なる。また, コメント欄に記述がない場合でも, 記入後の個別セッションで理由を問うと表3に分類できる回答もあった。自己分析シートのコメント欄に記入されたコメントの数のみで一概に比較することはできないが, ここでは目安として総数も記入することとする。

表3 自己評価の理由の分類

	「できる」と思う理由	総数	「できない」と思う理由	総数
言語的要素	1) 文法	17	1) 文法	6
	2) 語彙	3	2) 語彙	12
	3) 全般	14	3) 聴解	3
			4) 発音	2
			5) 全般	4
経験的要素	1) クラス外使用	14	1) クラス外使用	5
	2) クラス内使用	8		
	3) クラス内学習	29		

分類した結果, 学生が自己評価をする根拠となるものは, 表1であげたような学習経験によるものだけでなく, 言語活動の様々な要因を考慮して自己評価を行っていることがわかった。また, 言語的要素, 経験的要素を複合的に記述しているコメントもあり, これらの要素は複雑に絡み合っている。

表3からも分かるように, 「できる」と思う理由に対して, 「できない」と思う理由は, より細かく分類される。これは, 「できる」と思っている場合は, 文法や語彙など含め全般的に「できる」と感じているのに対し, 「できない」と思う場合には, 語彙知識や聴解力, 発音の不十分さを自覚する機会が多いということであろう。

また, 経験的要素の「できる」理由は教室内外での経験があげられているが, 「できない」と思う理由は「クラス外使用」についてのコメントのみであった。これは, 教室外での実際の使用場面でできなかったというわけではなく, いずれも教室外で「使用する機会

がない」というコメントであった(表4参照)。個別セッションで、このコメントについて問うと、ある学生は、教室外で実際に使用してみないと「できる」という評価はできないということであった。クラスで学習したから「できる」と評価する学生も多くいる一方で、クラス外で使用し、実際にコミュニケーションが成立しなければ「できる」とは評価できないとする学生もいることが分かった。

表4 自己評価の理由の記述例

	コメントの記述例	理由の分類
「できる」と思う理由	言語的要素	
	Can use honorifics now.	文法
	Better now but lack of vocab and true understanding of verb associates	文法, 語彙
	I feel very confident in this grammar.	文法
	I can remember all the verbs learnt in that chapter.	語彙
	I think I'm okay with it.	全般
	経験的要素	
	We have practiced this in class several times.	クラス内使用
	I never really had to practice or actually make phone calls in Japanese while in the US, but now I can and have done so, after learning how to do it.	クラス外使用
	Had to do it when I got lost in Shinjuku and Ichigaya.	クラス外使用
	Since I use it now with my friends and in class, I don't have many problems doing this.	クラス内外使用
	Did not learn before I came. Now since I've learned it, I can use it.	クラス内学習
	I learned it in class.	クラス内学習
「できない」と思う理由	言語的要素	
	Potential form is still not so natural.	文法
	I need to review this grammar point	文法
	The grammar is really easy, but my vocab is really weak.	文法, 語彙
	Studied it in class but don't know a lot of vocabulary	学習, 語彙
	Still hard to understand what people say if they speak quickly.	聴解
	ききとり is still really difficult, but I know the grammar enough	聴解, 文法
	I believe I can do this without much difficulty, but my pronunciation probably needs work.	発音
	経験	
	I have no chance to do it.	クラス外使用
	I have never done it. In class, I have done it, but not in real situation.	クラス外使用

3-2. 評価の振り返り

学期途中と学期末の自己分析シートでは、その時点での自己評価を行うとともに、学期初めを振り返っての自己評価も行った。学期初めを振り返って行った自己評価と、学期初めに行った自己評価2つの平均値を比較した。その結果、23項目全てにおいて、学期初めに行った自己評価は実際の能力より高かったという評価の修正がみられた。また、同じく23項目全てにおいて、授業後の現在(学期途中あるいは学期末)は学期初めと比較して、自己評価の平均値が上がっていた。

たとえば、「目上の人に自己紹介する」の項目においては、学期初めの学生の評価の

平均は 2.5 であった。しかし、学期途中で、学期初めを振り返って評価したところ、2.2 と、評価が下方修正されている。そして、授業後の学期途中の現在は 3.5 と、ある程度できるようになり、学期初め当初における自己評価よりもあがっていると評価している学生が多いことがわかった。表 5 では例として 4 項目のみ記したが、そのほかの項目も全て同様の結果であった。

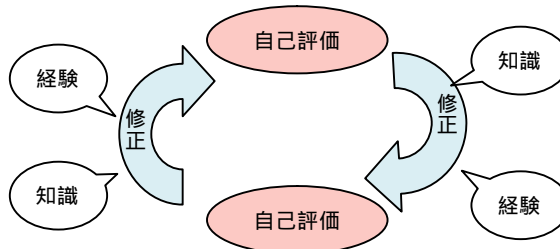
表 5 自己評価の修正

		目上の人に自己紹介する	面接で自分ができることを言う	自分の国の食べ物について話したり、作り方を説明する	アドバイスを する
自己分析シート (学期初め)	現在(学期初め)の 評価	2.5	2.3	2.0	2.6
自己分析シート (学期途中/学期末)	学期初めの振り返り	2.2	1.8	1.6	2.2
	現在(学期途中/学期末)の 評価	3.5	3.1	3.1	3.2

評価が修正されたことについて、学期途中の自己分析シート記入後の個別セッション時に、理由を尋ねた。そこでは、「I realized maybe it wasn't as good as I thought it was. So, here I thought it was good, but after learning the right way, I realized that I wasn't that good as I thought.(以前は自分で思っていたほどできていなかったことに気づいた)」
「What you plan, I thought it was one way, するつもり or 行きたい, and then we did the volitional しよう form. I thought I knew it from before, and then I realized, oh, this is slightly different from what I thought it was. (予定を話すときの表現は以前から知っていたが、違う表現があることを知った。)」と、より表現の幅が広がったなどの振り返りがみられた。

このことから、学生は、その時点で習得している知識を基準に自己評価を行っていることがわかる。そして、自己評価は、図 4 のように新たな知識を得、経験をすることで修正されていることが確認された。学習は、常に自己評価の修正を繰り返しながら進めていくものなのであろう。

図 4 自己評価



4. 結論

以上のことから、学習者が「できる」「できない」と判断し、自己評価する理由には、語

彙表現や文法的な知識、発音、聴解力などの言語的要素、及び教室内外の経験が深く影響していることが分かった。学習事項を教室外においても使用し、経験を重ねていくことが学生の「できる」という自己評価に強く結びついている。教師は、より教室内外を結びつける授業実践が求められる。これらの結果から、2009年度より、学習した表現の教室外での使用機会を意識できるようなシートを新たに作成し、実践に取り入れている。

また、自己評価は常に変化するもので、変化していくことにより気づきがあり、学習の内省へとつながる。学習者が自己評価をする機会を繰り返し設けることで、より深い自己評価へと発展させることが可能だと考えられる。自己分析シートは気づきを促すために有用であろう。学習者は一連の活動により、自己の学習過程を可視化することで過去や今後の学習を意識することができる。

学期終了時にアンケートを行なったが、自己分析シートは「学習の目標を設定するのに役立った」、「今後の学習計画にも役立つ」という回答が多く見られた。学習の目標を持つことは自律的に学習を進める上でも重要なこととされている。今回の実践は、学生においては、自己の「できる」「できない」を考え、できるためには何をすればいいか、教室外でも意識し行動していくきっかけになると考えられる。それはまた、今後学生が自分の学習に責任を持ち、学習を計画・管理・実行することに結びつくことと期待される。また、教師においては、学生の学習状況を把握し、指導がより行きとどいたと感じることができた。学生は、教師が一人一人の学習状況や課題を把握していると感じており、それは信頼関係や教室の雰囲気作りにも役立った。今後も、事例を積み重ねつつ、自己分析シートによる自己評価活動の可能性を探っていきたい。

謝辞

本研究は桜美林大学言語教育研究所の2009年度研究運営助成金を受けたものである。同研究所及び桜美林大学日本語プログラム担当の方々にご協力ご助言をいただき、深く感謝申しあげる。

注

- (1) 桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」(2007)では、教師が学習者と学習について話し合い、学習カウンセリングやコンサルテーションをする活動を、その活動形式に着目して「個別セッション」と呼んでいる。本稿でもこのような活動を「個別セッション」と呼ぶこととする。
- (2) 08年度の実践では、『はじめよう日本語初級2メインテキスト』(TIJ東京日本語研修所2006)を用いた。

参考文献

- (1) 桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」(2007)『自律を目指すことばの学習 - さくら先生のチュートリアル』凡人社
- (2) 菅原和夫・高橋澄子(2008)「学習者の自己評価を促すプロジェクト活動」WEB版『日本語教育実践研究フォーラム報告』2008年度日本語教育実践研究フォーラム
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/kenkyu/Forumhoukoku/2008sugawara.pdf> (2009年8月30日)

- (3) 土屋真理子(2008)「自律的な学習を目指した教室授業における自己評価シートの役割」
『桜美林大学言語教育論叢』第4号, 桜美林大学言語教育研究所, 1-13
- (4) トムソン木下千尋(2008)「海外の日本語教育の現場における評価 - 自己評価の活用と
学習者主導型評価の提案 - 」『日本語教育』136号, 27-37
- (5) 白頭宏美・久保田美映(2009)「一斉授業における自律的な日本語学習への試み
- 自己分析作業の過程から - 」『桜美林大学言語教育論叢』第5号, 桜美林大学言語教育
研究所, 151-162
- (6) TIJ 東京日本語研修所(2006)『はじめよう日本語初級2メインテキスト』スリーエー
ネットワーク